

【議題】

「男女共同参画センターと地域づくり」

【説明】

第4期市民運営協議会は、「男女共同参画センターと地域との連携」を一貫としたテーマとし、1回ごとに具体的な検討課題を取り上げて議論していきます。今回は「男女共同参画センターと地域づくり」というテーマについて各委員よりご質問やご意見をいただきました。

【意見交換の概要】

フォーラムからは、①地域の市民利用施設として来館者を増やし利用してもらうための事業と、②男女共同参画実現のための事業の2種類の事業のバランスについて意見をお願いした。それに対する意見として、地域の市民利用施設と男女共同参画の専門施設を一体的に行っていくことの大切さや、地域連携の方法についてご意見をいただいた。

【主なご意見】

- ①フォーラムの来館者に地域ケアプラザや地区センター、社会福祉協議会、福祉施設といった他の施設を適切に紹介し、つなげる機能を持つとよいのでは。困った時に適切な情報を得られるように人が集まってくるようにすると良い。特に支援が必要だが自らそれを求めて来館することができない人へのアウトリーチにも心を配ってほしい。一方で地区センターや地域ケアプラザと連携して、地域の課題を把握することも大切だ。そうした施設ではできないことをフォーラムがやる、ということもできるのではないかと。
- ②地区センター等他の公共施設は人と出会える場、フォーラムは自分を振り返ったり学ぶ場と使い分けている利用者もいる。人とのマッチングの事業があると利用が増えるのではないかと。また男性が変わることで社会が変わると考えられるので、もっと男性が興味を持ちそうな講座を増やして男性の来館を促進し、来館したら自然に男女共同参画について考えられるようなしかけのある事業がなされると、館の意義が高まるのではないかと。
- ③公共施設の中でなぜ、他ではなくフォーラムを選ばれたのか来館者にアンケートで尋ねてみてはどうか。現在は有料施設やライブラリの利用者・講座参加者へのアンケートしかないもので、その他の来館者に利用する理由を尋ねることでフォーラムが地域で求められている役割がわかるだろう。
- ④支援施設等の社会資源と連携し、フォーラムに相談すればふさわしい支援が得られる団体を紹介してもらえそうなクリアリングハウスの役割をフォーラムが持つてはどうか。かつ町内会や学校などに対してそれらの連携先のPRをしてもらえると、小さな支援団体などは困っている人を抱える地域や学校に存在を知ってもらうことができ、それが地域連携となる。
- ⑤男女共同参画センターという館の名前やコンセプトが難しい。意識なく来館したらなんとなく男女共同参画について意識づけられ、自然と考えさせられるようなしかけがあることが理想。
- ⑥公益団体として、人が集まるということはニーズがあることと同義。市民利用施設として来館者を増やすこと、男女共同参画の推進は一体的にやっていくことに意味がある。

【特記事項】

次回は、各委員の地域連携を含めた活動についての報告と、今回のご意見をふまえたフォーラムの取組を報告する。